



2010年～2011年度国際ロータリー第2790地区

第12分区 ロータリー情報研究会

報告書

- 【開催日】平成22年10月15日(金)
 【登録開始】午後1時30分受付開始
 【開催時間】午後2時00分～午後4時30分
 【開催場所】松戸商工会館 大会議室(5F)
 【開催形式】卓話の後、バズセッション形式
 【卓話】地区職業奉仕委員会 クラブ研修委員会(安蒜 俊雄 委員)
 【テーマ】『私たちは何故週一度ロータリーに集うのか』

◆次第◆

- 司会 小野塚 雄 (松戸東 RC)
- 1、開会宣言・点鐘
松戸東RC会長 織田 勉
 - 2、国家斉唱
 - 3、ロータリーソング斉唱「奉仕の理想」
 - 4、ガバナー補佐および地区委員紹介
松戸東RC会長 織田 勉
 - 5、第12分区ガバナー補佐 開催挨拶
第12分区ガバナー補佐 得居 仁
 - 6、ホストクラブ会長挨拶
松戸東 RC 会長 織田 勉
 - 7、地区クラブ研修委員会 委員長挨拶
地区クラブ研修委員会 委員長 海寶 勘一
 - 8、地区職業奉仕委員会 クラブ研修委員 卓話
地区クラブ研修委員会 委員 安蒜 俊雄
 - 9、テーブルごとに討議し意見交換
 - 10、テーブルごとの意見発表
 - 11、総評
地区職業奉仕委員会 委員長 土屋 亮平
 - 12閉会宣言・点鐘
松戸東RC会長 織田 勉

◆ガバナー補佐・地区委員◆

- ・国際ロータリー第2790地区
第12分区ガバナー補佐 得居 仁(松戸東 RC)
- ・国際ロータリー第2790地区 職業奉仕委員会
委員長 土屋 亮平(松戸 RC)
- ・国際ロータリー第2790地区 職業奉仕委員会
クラブ研修委員会 委員長 海寶 勘一
(千葉西 RC)

- ・国際ロータリー第2790地区 職業奉仕委員会
クラブ研修委員会 委員 堀内 正一(木更津 RC)
- ・国際ロータリー第2790地区 職業奉仕委員会
職業奉仕研修委員会 委員 中山 政明(松戸 RC)
- ・国際ロータリー第2790地区 職業奉仕委員会
クラブ研修委員会 委員 安蒜 俊雄(松戸東 RC)

◆第12分区ガバナー補佐 開催挨拶◆

国際ロータリー第2790地区
第12分区ガバナー補佐 得居 仁

織田吉郎ガバナーは、職業奉仕＝職業倫理の高揚という「垂直の内面的芯棒」が再び蘇ったとき、日本のロータリーは危機から脱することが出来る



のです、とされ、職業奉仕をロータリー復興への最枢要委員会と位置づけておられます。

織田ガバナーは、PETSにおいて、ロータリー情報研究会は我が第2790地区特有の勉強会であり、当地区を「ロータリーを真面目に考える地区」とすることに貢献しているので、大切に守り育てていかなければなりません、と述べられ、ロータリー情報研究会を分区単位で開催するとされました。

また同時に、ロータリーの研修システムは、トップダウンであり、ここから各クラブ(各ロータリアンと言っても良いでありましょう。)には、常に、「本当にこれで良いのだろうか、少し違うのではないか・・・」との消化しきれない気持ちが澱のように沈殿し、それがストレスになっている、このようなストレスを解消するために、情報研究会やIMを出来得る限り双方向討論の場に構成した

い、とも述べられました。

このような方針の下、織田ガバナーは、ロータリー情報研究会に、「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」とのテーマを設定され、最枢要としておられる地区職業奉仕委員会のクラブ研修委員会委員を研修リーダーとして派遣されることになりました。

本日ここに松戸東ロータリークラブをホストクラブとし、安蒜俊雄地区職業奉仕委員会クラブ研修委員を研修リーダーとして、土屋亮平地区職業奉仕委員長、海寶勘一地区職業奉仕委員会クラブ研修委員長をはじめとする地区委員をお迎えして、第12分区ロータリー情報研究会が開催されることになりました。

「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」、易しい問いかけではありますが、この問がどうして職業奉仕と関係するのかを含めて、大変に示唆に富んだテーマであると考えます。

本日のロータリー情報研究会が真に実りあるものとなりますよう、ご出席の皆さんの建前論ではない、本音をぶつけ合っの真剣な双方向討論をお願いして、ご挨拶と致します。

◆ホストクラブ会長挨拶◆

松戸東 RC 会長 織田 勉

皆様今日は、今年度第12分区「ロータリー情報研究会」を開催するに当たりホスト・クラブを代表して御挨拶申し上げます。本日は第12分区得居ガバナー補佐をはじめ、地区委員の皆様、そして分区5クラブの会員の皆様、第12分区「ロータリー情報研究会」にお越し頂きまして誠に有難うございます。



今年度「地区職業奉仕委員会」海寶クラブ研修委員会委員長より、ガバナー補佐輩出クラブがホスト・クラブとなり、織田吉郎ガバナーの理念である「ロータリーの綱領」を基本として、職業に誇りと価値を求めて、高潔な職業人の集まりであるべきクラブ例会の重要性を認識するため、「ロータリー情報研究会」を開催するよう要請がありました。そのテーマは「私達はなぜ週一度ロータリーに集うのか」とされており、私達は週に一度のクラブ例会出席は自分の職業に対して忠実な心を養い、色々な会員の奉仕姿勢を見聞きしこの交流、親睦を、自己を教育する機会としてとらえ、己の至らぬ所を学び自分を磨く、自己研鑽の場とし、そしてそれを自分の職業に生かす、それが例会への出席の理由と学んで来ました。

しかし今、クラブ例会は慣習化されてしまっていると
言われております。研究会のテーマ「私達はなぜ週一

度ロータリーに集うのか」と問われているのではないで
しょうか。地区委員の卓話を頂き、そして学び、毎例会
出席する意義と重要性をグループ討議を通して大いに
議論して頂きたいと思ひます。

各クラブ会長、幹事様には「ロータリー情報研究会」開
催に向け、多大なる御協力を頂きました事を心より感謝
申し上げます。本日のテーマに相応しく110名の出席
者をお迎えする事が出来ました事、御報告申し上げます。
ホスト・クラブとして全会員精一杯努力をし、開催さ
せて頂きました。この手作りの「ロータリー情報研究会」
が出席された皆様にとって意義の有る研究会となります
様、願い、挨拶とさせていただきます。

◆地区クラブ研修委員会 委員長 挨拶◆

国際ロータリー第2790地区
職業奉仕委員会 クラブ研修委員会 委員長
海寶 勘一

第12分区5クラブ
の皆様、こんにちは。
只今ご紹介を賜りま
した、地区職業奉仕
委員会に属し、クラ
ブ研修委員会の委
員長であります、千葉
西ロータリー・クラブに所属する海寶勘一です。



只今は12分区得居仁ガバナー補佐さんと織田勉松
戸東RC会長さんのご挨拶にもありましたが、今年度は
織田ガバナーからスタイルを磨こうという地区テーマを
頂き、そのためには職業人としてのロータリアンの基本
である職業奉仕をよく理解をして、一層ロータリーライフ
を有意義にさせていこうと、委員会活動がスタートをされ
ております。

再度の御説明になりますが、各14分区でロータリー情
報研究会を開催して頂き、分区の皆さまのグループ討
議において、「私達はなぜ週一度ロータリーに集うのか」
のテーマをもって、自由闊達なグループ討議をして頂
きたいと思ひます。

土屋地区職業奉仕委員長さんが、いつも口癖に申さ
れる言葉は、ロータリーの職業奉仕をもっと簡易に受け
止めて、ご自身が日常携わっている事業経営の理念や
姿勢そのものを、例会で集う仲間とともに自己研鑽をす
ることです、と仰っております。

毎週の例会では、形式や形骸化されたことだけでは
なく、もっと活発な会員同士の交流をもって、研鑽や修
練や感化をしあうことができるようにしたいものです。

これから安蒜俊雄地区委員の卓話を参考にされて、
是非とも意義のあるグループ討議をして頂ければ幸甚
ですし、先ずはご自身の事業繁栄に結びつけて一層の
職業奉仕の心を磨いてほしいものです。

◆卓話◆

国際ロータリー第2790地区
職業奉仕委員会 クラブ研修委員会 委員
安蒜 俊雄

ただ今、ご紹介頂きました地区職業奉仕委員会の小委員会であり、クラブ研修委員会の委員安蒜俊雄と申します。松戸東RC会員で、職業分類は公認会計士でございます。



織田ガバナーから、クラブ研修委員会に対しまして、各地区で開催されるロータリー情報研究会の主管をするようご要請を頂きました。テーマもご指定いただきまして、「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」です。ロータリーの理念に関わる大変重要なテーマであると思っております。

後ほど、皆様方には、各テーブルにて、このテーマで討議をして頂くことになっております。

その前に、これまでにロータリーで学んだことをお伝えし、後ほどのグループ討議の参考にして頂けると幸いです。例会の役割は、様々な視点からとらえることができると思いますが、本日は職業奉仕の視点からお話しさせていただきます。よく「職業奉仕は難しい」とお聞きしますので、実践レベルでの見える可を試みたいと思います。そして例会との関わりをも考えて見たいと思います。

はじめに、ロータリーが大事(理念など)にしていることをおさらいさせて頂きたいと思います。解釈にご異論のある方がいらっしゃいましたら、今日のところは、安蒜の主観であるご理解頂きたいと思います。

ロータリークラブは1905年に、アメリカ、シカゴで誕生、1業1会員制と規則的例会出席の原則が確立され、1912年には、ロータリーの綱領とロータリーの標語が採択されました。その後、ロータリークラブは105年間にわたって継続、成長・発展し、現在200以上の国と地域、33,855クラブ 会員122万人余を擁しております。

ロータリーに関する基本的な考え方を確認させていただきます。

【ロータリークラブは】: 職業倫理の向上を諮る同志の集まり (土屋委員長より)

【ロータリーの目的は】: 職業倫理を高揚してゆくこと (織田ガバナー、ガバナー月信7月号:ロータリーの矜持=ロータリーの綱領→(ロータリーの綱領は、…→「ロータリーの目的は社会に価値のある企業活動の基本として奉

仕の理念を企業に導入し、育んでゆく、特に…。)と読み替える。)

【ロータリークラブは何を目的としている集団ですか】と問われることがあります。

ロータリー運動は、一口にいつて、人生を如何に生きるべきかを問い続ける専門職業に携わる者又は企業経営者の生涯学習の場です。

会員は一業一会員を原則として週一回の例会をもっています。この運動の目標とするところは、会員相互の交流を通じて自己啓発を図り、道徳水準を高め、その心をもって自らの職業を通じて社会に貢献することを目指している倫理運動です。

平素の行動の行動基準として、【四つのテスト(自己評価の観点)】を示し自己抑制を求めています。

この四つのテストについては、佐藤千壽パストガバナーの次のような解説がございます。

- ・ロータリー精神を一番わかり易く表現しているもの
- ・Service above self や One profits most who serves best という哲理を、具体的行動指針として置き換えたのがこの「四つのテスト」、これこそロータリーの真髄
- ・「近江商人の家訓“売り手よし、買い手よし、世間よし”の“三方よし”は、ロータリーの四つのテストを全部包み込んでいる」
- ・これをもっと煮つめて一番短い簡単な言葉で表現しろ、と言われたら、「相手の立場になって考える」ということ

【二大標語】

- ・超我の奉仕 (Service above self)

ロータリーの哲学

自分の利益だけに没頭することなく、自分の正当な利益だけを受け、先ず奉仕(*奉仕の心で、利己と利他の調和)せよ。

二宮尊徳「一円観」(善と悪、勤勉と怠惰、真面目と遊び心、貪欲と奉仕)

- ・最もよく奉仕する者、最も多く報いられる

(One profits most who serves best)

実践的倫理原則

職業奉仕理念

“情けは人の為ならず”(人に情けをかけておけば、いずれめぐりめぐって自分のためになる。)

成功する商売の道は奉仕することにかかっている。どんな取引でも買手と売手双方に利益するものでなければならぬ。

【職業奉仕】: 自己の職業にロータリー精神(奉仕の精

神)を傾注させ、世の中に役立たせること(土屋委員長より)

【奉仕の理想】:は「入りては例会で“超我の奉仕”のころを磨き、出でては“最もよく奉仕する者、最も多く報いられる”のころで奉仕の実践をしよう」ということ

【職業奉仕→行動(実践)レベルでの理解(見える可)】を試みたいと思います。

別紙のとおりですが、

①お客様に喜ばれて ②社員がいきいきと仕事をして
③利益を出し ④社会貢献する

この4項目を同時に実現するための実践行動ということができると思います。

さて、1905年創立、1923年のロータリーの理念の確立後、理念や週一度例会開催の原型に大きな変更がなかったように認識しておりますが、1905年当時及び20世紀初頭をご一緒に想像してみたいと思います。ロータリーの誕生についての一般的見解、としては；「友」より ロータリーとは 「ロータリーの誕生とその成長」に次のように書かれております。

20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道徳の欠如が目につくようになっていました。…青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、……。

創立時及び20世紀初頭のアメリカの社会・経済を想像すると、正に激動の時代、乱世であったと思われます。無法・腐敗の街シカゴ、金儲けのためなら人殺しや、不法侵入、不払い、計画倒産、取り込み詐欺、夜逃げ、およそ考えられる限りの悪知恵競争を繰り広げていたということです。“騙される方が馬鹿”の道徳観が公然とまかり通っていたようです。アル・カポネ(シカゴ暗黒街のボス、ギャングスター 1899年生まれ～1947年没)という人物もいました。無秩序な自由競争の結果発展した大企業の放任阻止のため反トラスト法の制定がありました。

日本の歴史に関係することとして1905年はポーツマス条約(日露戦争の講和条約)締結ですとかあります。

昨今、ギリシャ危機をはじめとして世界の金融・経済は、今非常に大きな変化の荒波を受けています。生産者人口の減少(少子高齢化)、デジタル化や、インターネット時代が急激に進行している時代でもあります。そんな中で、既存の市場が消えていく事態に直面している経営者が少なくないようです。今まで売れていたものがさっぱり売れなくなる。今までの顧客がぱったりいなくなる。特に最近では、単に安ければ売れるというものではなく、顧客のニーズが非常に多様化しており、対応に苦慮している状況もあります。もちろん、業種業態を変

え成功している企業も結構多いと思われます。さらに、リーマンショック後の景気低迷下でも、増収かどうかは兎も角として、史上最高益を出されている企業もあります。

これは、要するに、世の中が急速に変化しているということであって、変化を嘆いたり変化を止めよう思っても、それは不可能なことです。このようなときに、自分がいかに対処するかを考え、具体的に行動していくことが経営(環境適応業)というものだといわれます。

さて、先輩から教えていただいたことですが、常々、こういうイメージで経営をすることにしております。「お客様に喜ばれて、社員がイキイキと仕事をして、利益を出し、社会貢献をする。」これは、ロータリーの職業奉仕の理念(最もよく奉仕する者、最も多く……)を一段行動レベルへ分解したものともしたいと思います。この経営のイメージを念頭に置きますと、過去約10年の間に起きた様々な企業不祥事は、隠蔽工作も絡み、とてもお客様に喜ばれるものではありません。また、不祥事の発覚も社員からの情報提供が大半とも聞いております。とてもイキイキと仕事をしていたという状況ではなかったようです。

正に、『「天網恢々、疎にして漏らさず」悪事を冒した者は天罰をのがれることはできないということ。』と思えます。もちろん、利益を出し、社会貢献することに、純粋さを欠いていたと思われます。不祥事を起こした企業名を挙げるときがありませんが、中でも、伊勢の赤福が製造年月日、消費期限等の偽装をし、営業禁止になったことは残念でなりませんでした。

素晴らしい経営姿勢で経営されていた創業300年以上の会社と認識しておりました。5月の朔日餅のときに本店を訪れたことがございます。社長は、伊勢ロータリークラブの会員であったようです。この経営のイメージに照らしますと、一部が欠落していたと思われます。いつ誰が見ているかわかりません。1億(国民)総監査人の時代ですから、法律遵守は基本です。お客様に全く喜ばれないことをしたのです。

現下の経営環境にあつて経営者にもっとも必要とされる能力は、コミュニケーション能力だといわれます。すなわち社員、取引先、株主、顧客など、さまざまな立場の人たちとしっかりコミュニケーションをとって現状を把握し、みんなの思いや実力の発揮できる場がどこにあるかを前提に、会社の戦略・戦術を示すことが求められるようです。建前・形式の時代から本音・本質の時代への現状認識が必要のようです。

ここで、もう他界されておりますが、あるロータリアンが経営されていた会社の経営理念をご紹介させていただきます。職業奉仕の理念を格調高く表現されている経営理念であり、「お客様に喜ばれて、社員がイキイキと仕事をして、利益を出し、社会貢献をする。」がしっかり醸し出されていると思ひます。会社の存在意義、行動指針、社風、それらの価値観の共有、リーダーシップ、コ

コミュニケーション、様々な重要事項が盛り込まれていると思います。経営資源という言葉がありますが、人、物、金、情報、社風です。正に、この理念の下での社風を大事にされていたように感じます。(別紙参照)一読します。

1960年、売上高が10億円にも満たない町工場のような状況ときの経営理念の策定であったようです。2007年3月期は売上高579億円経常利益93億円だそうです。

「日々に新たに、また日に新た(ダイヤモンド社)」という書籍に紹介されております。ホームページで確認しましたところ、現在も全く同じ経営理念です。

経営理念の中にも謳われておりますが、「日に新たに、日々に新たに、また日に新たなる・・・」は中国の格言

「(殷王朝 初代湯王「筍に日に新たに、日に新たに、又日に新たなり(今日の行ないは、昨日よりも新しくよくなり、明日の行ないは、今日よりもさらに新しくよくなるように日々修養に心がけなければならない)」、**“新たにする”は“学ぶ、修行する”ことだそうです。**

私たちの先輩・友人のロータリアンの中には素晴らしい経営をされている方々が、身近に沢山いらっしゃいます。**師は、クラブ内に、そして隣に座っていらっしゃいます。**

昨今は、先行き不透明、変化の時代、手本がない時代です。潜在能力を開花させながら新しい挑戦をしていく以外、道はないといわれます。これから新たにどんな商品・サービスを開発できるだろうかとか、新しい顧客をこういうやり方で開拓してみようとか、潜在的な可能性を考えてさまざまに試行錯誤していく必要があるのではないのでしょうか。

時代を大きく見渡せば、今は「乱世」とよんで良いと思います。現下の経済は超円高、デフレです。この乱世は、1985年のプラザ合意(為替協調介入、超円高)から始まっており、60年続くともいわれます。物事が昨日と同じように動く世の中ではなく、今日は昨日とはまったく違うことが平気で起こる時代です。したがって、乱世においてこそ、勉強が必要だといわれます。

では、何を勉強すればよいのか。リーダーシップ、マネジメント、技術のこと、世の中の情勢など。さらには人としての生き方や哲学なども大変重要になってきます。これをしっかりと勉強しておかないと、非常に大きな変化に直面したとき、狼狽したり短絡的な行動をしてしまつて、成功から遠ざかってしまうことが多いようです。

また、乱世においては、実学はあまり役に立たないといわれます。即戦力とされる人材が、なかなか成功を持続できなかつたり、組織の価値観を乱すことになったりします。乱世であればあるほど、基本に立ち返つて経営の基礎を固め、特に、社内の価値観(思想)の共有が重要項目です。本来の自分の使命を果たすよう、価

値観の共有を図り、経営者も社員も行動していかなければ、未来は開けないといわれます。

今、私たち職業人は、1905年当時と同様に、激動の乱世の中にいるとご認識をいただいて、例会の意義を考えてみたいと思います。

一週間、私たち職業人は、厳しくも慌しい俗社会の中で、職業に専念する毎日なのですが、時には適当な方便もつきながら、利己主義に陥りやすく、様々にけがれた身になって、ホームクラブの例会に出席してきます。

例会の目的は、癒しの場・憩いの場であるのと同時に、異業種の仲間達との親睦や職業上の発想の交換を通じて、相互に分かち合いの精神による事業の永続性を学びあい、友情を深め合い、反省や志の再確認をし、自己心の改善を図ることにあり、その結果としての奉仕の心、即ち、思い遣りの心が育まれてくるのだと思います。

米山梅吉翁が語った『ロータリーの例会は人生最高の修練の場』とは、会員同士が切磋琢磨して、自己研鑽に励む貴重な修練の場でなければなりませんから、例会運営にあたる会長と幹事やSAAは、会員が職業に従事すべき貴重な時間を割いていることに対して、例会に出席するメリットを、沢山与える責任と義務を認識したいものです。

同時に、出席会員は;

- ①例会は、会員各自によってつくられる。
- ②「貴方の出席が例会を変え、ロータリーを変え、そして、貴方と貴方が関わる家庭・職業・社会生活を豊かにする。」、すなわち、『貴方の出席が、・・・貴方を豊かにする。』

の意識をもって、出席していただきたい(・・・したい)と思います。

「人は、人の中でしか育たない。」

そして、乱世にあつては、「何気ない会話の中から、大きなヒント・気づきがある。」こんなことを思う昨今でございます。今こそロータリーの草創期に立ち還り、例会にて会員同士が職業奉仕を語り合い・学びあう(意義ある卓話を含む。)ことが、真のロータリー運動の推進につながり、ひいては、新しい会員の増強にも結びつくものと、大いに期待しているところです。

ご静聴ありがとうございました。

※以下は当日配布された卓話資料の抜粋です。

【職業奉仕→行動(実践)レベルでの理解】

- ①お客様に喜ばれて(誇り・使命感+商品・サービス、接遇。=地域貢献)
- ②社員がいきいきと仕事をして(理念の共有、人間性向上、社風、研修、待遇)
- ③利益を出し(適正利益。存続・発展のための再投資可能な利益留保)

④社会貢献する(税金。社会の抱える問題解決のために金品等提供若しくは商品・サービスの開発→新たにお客様(社会)に喜ばれる。/同業者、異業者、世間一般へ経営姿勢を実証し、明るい社会づくりへの一助)

【経営の理念】1960年 千住金属工業㈱

会社は社員共同の生活の源泉であり、人間完成の道場である。

されば先ず第一に会社の発展がそのまま社員の幸福一物心両面の成長に直結することを念願する。他方、会社存立の基盤たる現代社会は、日々不断に会社が優れた有用の製品を世に供給することを期待している。我等は社員と社会のこの二つの立場における要求を調和充足しつつ、その過程を通じて人類の平和と進歩に寄与し、もって公器としての使命を果たすことを経営の理念とする。

然らば、この理念のもとに結集し、会社発展の推進力となり、自己の人生を十二分に開花結実せしめるための必要にして且つ十分なる条件は何か—いわく実力、いわく誠実、いわく闘魂、まことにこの三カ条こそあらゆる生活の場における三種の神器である。またこの三条の満たされるどころ、そこにまたおのずから明るい職場、平和な職場、活気溢れる職場が築かれるであろう。この職場を原動力として、日に新たに日に新たに、また日に新たなる開拓者精神を推し進めるならば、あらゆる苦難を乗り越えて会社は成長発展を続けてゆくものと確信する。

願わくば我々は共にこの理念を身につけ、活力あらしめ、そして我等が職場に平和と友愛の橋をかけ、明朗にして健康なる生活の建設に邁進しようではないか。

参考

【経営理念】1961年 京セラ

全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること。

◆テーブルごとの意見発表◆

●Aテーブル

松戸東 RC 谷口 雅樹

「なぜ、週一度ロータリーに集うのか」と云う論点としましては、出席が義務と教わってきたから。役割があるから。という意見がありました。この義務化された事が親睦を深め倫理観を持ったロータリアンとして成長できるわけでございます。



出席することで刺激をもらい互いに磨き合える事が楽しみに繋がる。又、倫理観が高まることでロータリアンとしての誇りを感じる事が出来るから集うのだと云った意見が多く出ました。しかし倫理観や職業奉仕理念などと同等に社交クラブ的親睦も忘れずにすることが、出席に繋がると云う意見もありました。そのような中で「週に一度集う機会をどのように有効的なものにしていくべきか」と云う論点でそれぞれが今後考えていくべきだと云うことでまとまりました。

●Bテーブル

松戸西 RC 神谷 繁樹

Bテーブルは1年目の方が多くいました。なぜ毎週出席するのかと云う質問に、「義務だから」「紹介者の手前休むわけにいかない」などの意見がありました。中には、ロータリー



ソングを歌うことに違和感を感じている方もいました。気を許せる仲間を多く作り馴染んでいく為や、個人事務所なので人の意見を吸収する場として自分の為になると云った意見もありました。

メイクアップについてですが、クラブによっては料金が高いところもある。または、硬いクラブと気さくなクラブがあることを感じた方もいました。ロータリークラブは昼食をとるところだと皮肉られる事がありますが、本質は情報交換の場所であり出席の際は自分の引き出しを沢山開けて人の話を多く聞き、例会終了後にはメモを取り自分のものに吸収したいという方もいました。

個人的なことになりますが、大先輩の村田喜十郎さんが「週に一度仲間に見える事を楽しみにしているから例会が楽しくて仕方がない」と情熱を持って言われていたことで、私もそのようなロータリアンになりたいと強く願っていたことを思い出しました。

●Cテーブル

松戸北 RC 平田 洋一

「なぜ、週一度ロータリーに集うのか」の質問で、皆勤賞をポリシーにしたいので、ライフワークになっているという答えがありました。又、例会の楽しみ方の一つとして、メイクアップをすることも自クラブの良いところや悪いところが見えて楽しいと云う意見もありました。異業種の経営者の集まりなので先輩方のお話の中から色々な道しるべがある事が例会の楽しみであり職業奉仕に通じると言った意見もありました。

社会奉仕になります「矢切りの渡し」にベンチを寄贈したことが喜びとなった。例会に出席することで生涯の友を作りたいと云う意見もありました。まとめになりますが、例会はリラックス出来る空間と職業奉仕のバランスが大切と云うことになりました。

●Dテーブル

松戸東 RC 今井 浩志

3つのキーワードで協議しました。

1・情報

例会に出席する事で情報を得て、それを生活の中で活かしたい。

2・楽しいって何だろう

気を許せる仲間が集う事で、異業種間の情報の交換ができる。会社同士のビジネス交流ができ、自己主張ができる場面を活かす事で楽しさが出てくるのではないかな。

3・例会の意義とは

出席の目的意識を持って、自己研鑽の場を設ける事で意義が潜在化するのではないかな。

私見ではありますが、今年度の我がクラブの状態から述べさせていただくと、委員会活動が活性化される事で、クラブも活性化されてるようになります。



●Eテーブル

松戸 RC 下田 由起夫

異業種経営者の集まりであるので、同業種では話せない悩みや相談などもできる事から、気分転換の場として良いのではないかな。

年代を超えて、人生観など視野を広げる場として活用すべき貴重な時間である。

時代によって変化しなければならない部分があったとしても、ロータリーがロータリーである為の部分、今後とも大事にしていかなければならないと考えます。



●Fテーブル

松戸北 RC 鈴木 悦朗

週に一度の例会になった経緯は、クリスチャンの礼拝や記憶保持力の時間(一週間程度)というお話から理解できました。それと同時に例会が魅力的になるような工夫も必要だろうという事で、年間を通じての卓話の充実、とりわけ会員卓話を行う事で身近に感じてもらい、そして仲間意識を持って集えるのではないかなという意見も出ました。



●Gテーブル

松戸 RC 澤田 正宏

例会出席は、義務ではなく、特権と捉えるべき。

各会社のトップが集い、話ができる有意義な場と捉えて活かす事が求められる。

100%出席ではなく、120%出席こそが表彰に値するのではないかな。

ロータリーが誕生して100年余り、一業種一会員、MUの猶予期間等、時代の変化や増強にウェイトを置くあまり、緩くなってきているがための弊害がある事も事実であり、そもそもロータリアンとしての誇りが無くなってきているのではないかな。

本日のテーマが議題になり、討論する事がそもそもおかしいのではないかな。こういうテーマが出ないように、各クラブ、各ロータリアンの意識向上が必要。



例会において、多くの情報交換、人を知る事で、勉強になり人生に影響を与えてくれる。

出席なくして、ロータリーを語れない。この言葉が全てです。

●Hテーブル

松戸 RC 小川 一

1・例会へ出席する目的とは

仲間作り、情報交換を主とした大人の勉強会である。異業種であるがゆえの交流の場である。



2・何故週一回なのか

経緯は先ほどFグループから発表されたので省略いたします。

毎日開催しても、本来の目的を達成されない。期間を開けてしまっても、記憶力や欠席された場合の会員意識の持続力を考えてみれば、これも目的が達成されない。

私見ですが、先日ケニアに行った際に、大きなロータリーマークが付いたスーツケースを持った方とお話ができ、ロータリーのスケールメリットを感じる場面でありました。それらを踏まえ、会員である事の重要性よりも、ロータリアンとして何を学び何を行っているかが大切だと思います。

●Iテーブル

松戸西 RC 石井 弘

素晴らしい友人を作り、色々な事を得て、自分自身を向上させる場。

異業種交流の場でもあるので、様々なビジネスのヒントを得たり、気持ちを和らげる場。

例会は、小さなチャレンジの場であると思います。

多くの会員が出席する事で、様々な効果が生まれる事もあると思います。例会を通じて会員の意識や、品格向上に繋げるように企画するべきだと思います。



◆総評◆

国際ロータリー第2790地区
職業奉仕委員会 委員長 土屋 亮平

国際ロータリー第2790地区第12分区ロータリー情報研究会の閉会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。



本年度のロータリー情報研究会は、得居 仁ガバナー補佐様のご指導の下、織田 勉松戸東ロータリークラブ会長様を始めとする第12分区の皆様のご協力を戴き、情報研究会がこのように立派に終えることができましたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度の織田ガバナーは、5大奉仕部門の内、職業奉仕が最も理論的であり、倫理的であると結論づけられました。そのような観点から、今後益々増えることが予想されるであろうRIからの提示、並びに案件につきまして、各クラブがそれらについて、独自に、その是非の判断を下す必要性が想定されます。それ等に対応すべく、各クラブの職業奉仕委員会の中に『クラブ研修委員会』を設置することを要望され、常日頃から研鑽を積んで頂きたいと、断つての要請でございます。

特に織田ガバナーは、今年度、各分区毎に開催されますロータリー情報研究会を地区の職業奉仕委員会が担当するように指示され、テーマも「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」と示され、「出席なくしてロータリーなし」と言いますが、出席の重要性を再確認して、真のロータリーライフを構築して頂きたいとの思いと拝察致します。

“出席と申しますと、これはクラブ奉仕の分野ではないのか？”、“今更そんな当たり前のことを議論するのか？”等のご意見も聞きますが、ロータリークラブの定例会は、些か異にします。例会と言っても一連のセレモニー、食事、卓話、それ以外にロータリーの例会にはもっと深遠なものが存在しなければなりません。それを本日掘り採って頂いたと思います。それこそが、職業奉仕を理解する上での大前提であるからであります。

第12分区のロータリアンの皆様、今日の研修会は皆様にとってのロータリー情報研究会でありました。

敢えて言わせて頂ければ、地区職業奉仕委員会の任務は、職業奉仕への道案内に過ぎません。

どうぞ今日された活発なるご討議をクラブに持ち帰って頂き、楽しく、実り多いクラブ例会になりますことを期待致します。

混迷する社会で生き残る道は、唯一、職業奉仕の実践『大道無難』に尽きます。